

心不全は透析患者さんの死因の中で最も多く、極めて重要な合併症です。心不全には急性と慢性心不全があります。急性心不全には、急性心筋梗塞や高カリウム血症による不整脈、過剰な体重増加(うっ血生心不全)などが原因となり、突然心臓が停止することもあります。今、何でもない元気な患者さんでも、突然急性心不全を発症する可能性があるのです。一方、慢性心不全は、心臓病、糖尿病、加齢などの何らかの原因により、心臓の予備力が慢性的に低下している状態をいいます。少し無理をしたり、体重増加が多かったり、急激な血圧の変動などにより、胸苦しさ、息切れなどの心不全の症状が出現します。ひどい場合には、急性心不全と同様に命に係わります。

症状としては、浮腫、呼吸困難、起坐呼吸(寝ていると苦しいので、すわっている)、疲れやすい、運動能力の低下(階段が上れなくなったり、ながく歩けなくなる)が起こります。特に、夜間睡眠時の呼吸困難のために、寝ていられなくて、すわって呼吸をする(起坐呼吸)。

